

社会資本総合整備計画 事後評価書

計画の名称	心潤う信州の河川環境整備												
計画の期間	平成27年度 ~ 平成31年度 (5年間)								重点配分対象の該当				
交付対象	長野県												
計画の目標	河川環境整備を実施し、本県の貴重な財産である良好な水環境と豊かで多様な自然環境を適切に保全し、将来に引き継ぐ。												
全体事業費(百万円)	合計(A+B+C+D)	892	A	892	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C/(A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標(定量的指標)			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値 (H27当初)	中間目標値 (H29末)	最終目標値 (H31末)
1	諏訪湖水質改善：水質の環境基準を超過している諏訪湖において、諏訪湖水質保全計画に基づき、水質改善を図る。 諏訪湖水質改善：諏訪湖水質保全計画で定められた工法によって削減する全窒素と全リンの削減量 全窒素削減量	0t	t	3t
2	諏訪湖水質改善：水質の環境基準を超過している諏訪湖において、諏訪湖水質保全計画に基づき、水質改善を図る。 諏訪湖水質改善：諏訪湖水質保全計画で定められた工法によって削減する全窒素と全リンの削減量 全リン削減量	0kg	kg	400kg
3	湖自然再生：「諏訪湖水辺整備マスタープラン」により諏訪湖周をAからHまでゾーン分けし、それぞれの環境、親水、レクリエーションなどのテーマに基づき自然再生を図る。 諏訪湖自然再生：自然再生を実施する延長 B・Cゾーンの自然再生工区2,682mのうち	440m	m	900m

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---

A 基幹事業																				
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名 / 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
												H27	H28	H29	H30	H31				
		一体的に実施することにより期待される効果																		
		備考																		
その他総合的な治水 事業	A08-001	総合治水	一般	長野県	直接	長野県	環境	-	天竜川圏域総合流域防災 事業（諏訪湖）	諏訪湖自然再生事業L=460m	諏訪市						400	-		
												小計						400		
都市水環境整備事業	A14-002	都市水	一般	長野県	直接	長野県	統合河 川環境 (1)	-	諏訪湖 統合河川環境整 備事業	水草除去工、沈殿ビット工、 植生水路工	岡谷市、下諏訪 町、諏訪市						492	-		
				重点計画へ移行																
												小計						492		
											合計						892			

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
「長野県建設部社会資本総合整備計画評価実施要領」に基づき実施する。	整備計画の交付期間の最終年度に予定しているすべての要素事業が完了した後、速やかに実施する。（翌年度へ繰り越す要素事業がある場合は、当該事業が完了した後、実施する。）
	公表の方法
	長野県公式ホームページにおいて公表する。
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 諏訪湖水質保全計画に基づく浄化対策事業の実施により、環境基準を超過している諏訪湖の水質改善に寄与した。 ・ 諏訪湖水辺整備マスタープランに基づく自然再生事業により、B、Cゾーンにおいて多様な生態系の創出に寄与した。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	
特記事項（今後の方針等）	
継続中の事業については次期計画へ移行し、引き続き諏訪湖創生ビジョンで掲げる「人と生き物が共存し、誰もが訪れたいくなる諏訪湖」を目指した対策の推進を図る。	

案件番号：

目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因	
1	最終目標値	3t	
	最終実績値	3t	
2	最終目標値	400kg	
	最終実績値	400kg	
3	最終目標値	900m	効率的な施工により事業の前倒しが図れたため。
	最終実績値	1530m	